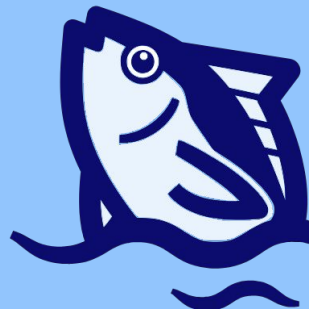


v1.5.0
リリースノート



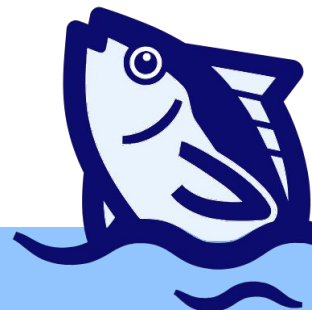
機能追加

- 最適化の「Run in Separate Process」オプションの追加
 - 有効にすることで Rhino とは別のプロセスで最適化を実行します。別プロセス化することで Grasshopper の Python との競合を回避します
 - デフォルトで有効になっています
- 「Convert Result to Tunny Log」コンポーネントの新設
 - 変数と目的関数の値を特定のフォーマットで入力することで Tunny の log 形式に書き出します
 - Tunny 以外の最適化結果に対しても変換することで Tunny の分析機能を使うことができます
- Tunny Fishing コンポーネントのワイヤー表示の「Hidden」「Faint」対応
- LAN Zoo ライセンスの対応
- Optuna のアップデートによるサンプラーの強化
 - GP の獲得関数に EI だけでなく PI、UCB、トンプソンサンプリングが選べるようになりました
 - CMA-ES サンプラーの分割と派生手法のCMA-ES with Refinement の追加をしました
- 新しい結果の分析機能の TunnyDashboard が利用可能になりました



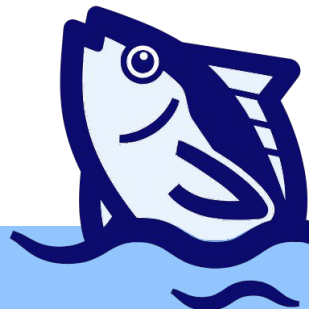
Tunny

The next-gen Grasshopper optimization tool.



変更

- NSGA-III の分割パラメータのデフォルトが自動計算になりました
 - もととのデフォルト値では分割数が少ないことが多くありました
- Rhino コマンド名の変更
 - 新規追加された「Tunny Dashboard」と区別するため、Rhinoコマンド `TunnyRunDashboard` を `TunnyRunOptunaDashboard` に名称変更しました
- リボングループの名称変更
 - Visualizeタブ内の「Browser」リボングループの名称を「Dashboard」に変更しました
- 最適化実行中のUI応答性の向上
 - 進捗更新を非同期化することで、最適化中のUI操作のレスポンスを改善しました
- バージョン確認機能のフリーズ回避
 - ネットワークの接続速度が遅い、または応答がない場合でも、新バージョンの確認処理で永久にハングしないよう修正しました
- Python 3 コンポーネントに関する警告表示の最適化
 - 競合を回避するために「Run in Separate Process」を有効化することを提案するよう変更しました
 - なお、同オプションがすでに有効になっている場合は警告が表示されなくなりました



Tunny

The next-gen Grasshopper optimization tool.

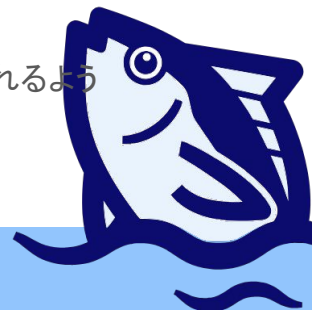
修正1

- WindowsでのPython環境再インストール挙動の改善
 - Rhinoの再起動が必要な場合のユーザー通知を含め、Windows環境におけるPython環境の再インストール処理が向上しました
- Python環境の初期化失敗時の安全なシャットダウン
 - 初期化に失敗した場合、Tunnyは正常にシャットダウンし、アプリケーションメニューからPython環境の再インストールを行うよう推奨するようになりました
- Rhinoセッション内でのPython再起動不可能な制限への対応
 - 同一Rhinoセッション内で一度Pythonインタープリタを停止すると再起動できない仕様に対応し、中途半端に初期化された状態を回避するため、Rhinoの再起動を求めるようになりました
- 使用済みセッションでのPython環境インストール保護
 - すでに同一RhinoセッションでPythonを使用した後にインストールを行うと環境が破損する問題があったため、この状況でのインストールを回避し、次の起動時に自動でインストールを実行するよう修正しました
- 中断・失敗したインストールの次回起動時自動再試行
 - インストールが途中で失敗または中断された場合、完了扱いとせず、次の起動時に再実行(再試行)されるようになりました。



Tunny

The next-gen Grasshopper optimization tool.



修正2

- Pythonパッケージインストール時のエラー検出と通知
 - パッケージインストール中の失敗を正しく検出し、ユーザーに通知するようになりました(破損した環境を「成功」と誤報告しないよう修正)
- Pythonランタイム初期化不能時の再インストール予約
 - ランタイムが初期化できない場合、次回の起動時に自動再インストールがスケジュールされます
- プロット(グラフ)生成エラー時のクラッシュ回避
 - プロット生成時のエラーによりRhinoがクラッシュするのを防ぎ、代わりにエラーメッセージを表示するようになりました
- ワーカープロセスのエラーログ改善
 - 「Run in Separate Process」で使用されるワーカープロセスで発生したエラーが、二次的なエラーで上書きされることなく正しくログに記録されるようになりました
- 破損した設定ファイルの自動バックアップ
 - 破損した設定ファイル(config)をサイレント削除するのではなく、削除前にバックアップを作成してユーザーに通知するようになりました。



Tunny

The next-gen Grasshopper optimization tool.



修正3

- CMA-ES および Restart CMA-ES サンプラーの動作修正
 - 上流の Optuna API 変更により動作しなくなっていた問題を修正しました
- CMA-ES / Restart CMA-ES のPopulation Size修正
 - Optuna の自動計算ではなくハードコードされたデフォルト値が使用されていた問題を修正しました
- Live Chart の日本語文字化け修正
- 存在しないTrial ID復元時のRhinoクラッシュ修正
 - 存在しないTrial IDをGrasshopperへ復元しようとした際にRhinoがクラッシュする問題を修正しました
- Rhino 7 (net48) 初回起動時のクラッシュ修正
 - Rhino 7(.NET 4.8環境)での初回起動時に、利用規約(Terms of Use)へ同意する際に発生していたクラッシュを修正しました



Tunny

The next-gen Grasshopper optimization tool.

